

私が見えなくなったとき

風がさわさわと駆け抜け、
どんぐりが音たててこぼれ落ち、
落ち葉降りしく林の中で、
私は息をひそめている。

桜吹雪の舞う中で、
萌え出した草むらに見つけるだろう
私の抜け殻を。

ミモザが黄金の花束となり、
匂いととも風に乗ばれて、

遙かアルルの乾いたカテドラル、
そのステンドグラスの輝きの中
私はため息をついている。

ヴェズレーの巡礼の丘、
修道僧の賛美歌と 膝折り頭垂れ
両腕広げ祈りの涙、
その中で震えている。

私は枯れない、ただ姿をかえるのみ。
新緑の森、蛍の揺らぎ、ハヤのきらめき、
オニヤンマのエメラルドの眼、
青春の喜びと戸惑いは 複眼に深く刻まれて、
私はトンボとなり、

川面を飛び 野を飛び、
あなたのまわりを行ったり来たりしています。

